

市議会議長賞

題名 「十年後の津山のために」

学校名 津山市立北陵中学校

学年 第2学年

氏名 加治佳樹 (かじよしき)

十年後の津山のために
僕は去年、校外学習で津山市役所を訪れた。
そこでは、津山駅周辺の整備計画について話
をしてもらった。
しかし市役所を訪れる前は、津山駅が整備
されるのが楽しみだと思っただけで、津山の歴史
的な雰囲気や風情が失われてしまっただけが少し
心配だった。今のままの津山でも十分魅力的
だと思っただけで、何もかも新しくしないでよ
いのではないかと。
しかしそれは市役所の方も懸念していたこ
とらしく、デザインコンテストで城下町の
風情が香る歴史と津山人との出会いとし、
デザイン全体に歴史的な趣を感じるような舗
装を施し、城下町の風情を残しながら整備を
進めるというのだ。
この話を聞いて、古いものの存在感や価値
に改めて気づかされた。人間はたいてい新し
いものの好きで、古きよきものが目に映らな
なってしまうこともある。そういう古きものも

のが少しずつ無くなつていけば、昔のころを
かたり継ぐものが無くなつていってしまふと
思う。長い歴史についてや戦争について実際
にかたることのできる人は残念だがこれから
減少していくだろう。しかし歴史ある建物は
残していくことができる。この辺で言うと、
洋学資料館などがそうだ。僕も小学生のとき
にそこで、津山の医学の歴史について勉強し
た。だから、たまにはこういって、太古のものに
も目を向けてみるべきだと思ふ。そしてその
ような価値のある建物を次の世代へとつない
でいくことが大切だと思ふ。
今日この作文を書いて、改めて地元につい
て考えてみて、地元のことだからあまり考え
なかつたが、昔ながらの雰囲気がある町はやっ
ぱりほつとするし、とても心が落ちつくなと
思つた。そして十年後の津山にもつ古きよき
津山が残つていてほしいと思ふ。